

V 日本語・日本文化科目

日本語第一 (Japanese 1)

山元 啓史 教授 佐藤 礼子 准教授 榎原 実香 講師 0-1-0 1Q

留学生を対象とする。語彙、文法等を確認・整理しながら、日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。特に論文・レポートの書き方を学ぶ。論文・レポートのトピックは自分で仮説を立て、簡単な実験を行う。それにしたがって「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「結論」「文献」の書式で記載する技術とルールを身につける。なお、日本語第二も継続して受講することを前提とする。

日本語第二 (Japanese 2)

山元 啓史 教授 佐藤 礼子 准教授 榎原 実香 講師 0-1-0 2Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目においては作成した論文・レポートにもとづいて、それらを伝える技術を身につける。なお、日本語第一を受講していることを前提とする。

日本語第三 (Japanese 3)

佐藤 礼子 准教授 榎原 実香 講師 0-1-0 3Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。日本語第一では、論文・レポートの書き方を学んだが、とりわけ、その中でも難しい、根拠・理由を述べる方法について取り上げる。「自分の好きなもの(こと)」をどのように根拠・理由を示していくかを考え、具体的方法論を身につけていく。なお、日本語第四も継続して受講することを前提とする。

日本語第四 (Japanese 4)

佐藤 礼子 准教授 榎原 実香 講師 0-1-0 4Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。日本語第二では、論文・レポートの発表方法を学んだが、その中でも根拠や理由を述べる方法については、復習を兼ねて練習するとよい。「自分の好きなもの(こと)」を説明するためには、どのような述べ方、聞き手に伝える技術が必要かを考え、具体的方法論を身につけていく。なお、日本語第三を受講していることを前提とする。

日本語第五 (Japanese 5)

森田 淳子 准教授 0-1-0 1Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。特に読書とそれを理解するための文化はどのように学ぶかについて重点的に学ぶ。特に日本語で書かれた長編の読み物を読破した経験を積むことにより、日本語を生きたことばとして柔軟に読みこなせるようにする。書籍を1冊選び、それを読み解くために必要な知識とは何かを考え、その知識の入手技術も身につける。また、その本の魅力を、プレゼンテーションの形式で、他の留学生に伝える技術を養う。

日本語第六 (Japanese 6)

森田 淳子 准教授 0-1-0 2Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目では、前の学期で得た伝える技術を元に、書籍・映画・ドラマ・漫画・アニメから1作品選び、その魅力を、ミニポスターの形式で、他の留学生に伝える技術を養う。その作品の内容を踏まえて、どの順番で、どのような表現で伝えればよいかを考え、実際にポスター発表を行う。

日本語第七 (Japanese 7)

森田 淳子 准教授 0-1-0 3Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目は日本語学習の最終段階と位置づけ、これまでにこなってきた自分から発する日本語技能ではなく、他から発する情報とその場で要約し、結論を述べる技術を養う。具体的には、セミナーを開く技術とは何かを考え、セミナーの題材、セミナーの運び方、オーディエンスの役割などを実演しながら考え、その技術を身につける。

日本語第八 (Japanese 8)

森田 淳子 准教授 0-1-0 4Q

留学生を対象とする。日本語技能の養成をはかり、学部学生として必要な日本語運用能力を高める。この科目では、クラスメートをオーディエンスとして、セミナーを開き、その話題提供者と司会者を演じる。「持続可能な開発目標(SDGs)」の取り組み事例から1例選び、その事例について調べ、話題を提供し、オーディエンス同士に質問し、議論に誘い、結論をまとめ述べて、セミナーを終了するまでの技術を身につける。

日本文化演習：適応 (Japanese Culture : Adaptation)

小松 翠 講師 佐藤 礼子 准教授 榎原 実香 講師 山元 啓史 教授 0-1-0 1Q

留学生を対象とする。東工大立志プロジェクトで必要となる、大人数講義で情報を聞き取りまとめる能力、グループワークに参加するために必要な能力を身につける。また、異文化間コミュニケーションの概念と方法論を用いて、異なる背景や文化をもつ人々がともに生きるために必要となる対話の手法を学ぶ。

日本文化演習：日本学 (Japanese Culture : Japanology)

山元 啓史 教授 0-1-0 2Q

留学生を対象とする。広く日本に関わる問題、政治・経済・社会・教育・芸術・文化を世界各国との比較を通して考える。テーマを自分で選び、自分の国との比較を行い、その類似性と異質性について具体的に調べる。来日以後、日頃感じている違いを具体的な根拠を示して説明することを学ぶ。日本学に関する論文を読み、関連学術分野における説明の仕方を学ぶ。後半では、プレゼンテーションを行い、クラスメートからの意見を参考に、最終レポートの執筆を行う。

日本文化演習：ことばと文学 (Japanese Culture : Language and literature)

山元 啓史 教授 0-1-0 2Q

留学生を対象とする。本講義では、より高度な日本語の学習と日本文学を読みこなす上での基本的な知識をディスカッションを通して学ぶ。文学には、現代語に関わる重要な前提が豊富に含まれている。題材は「古典文学」「近代文学」「現代文学」などを取り上げる。3種類の言語の特徴がわかるように教材を用意し、学生同士が自分が気づいた日本文学のお

もしろさを紹介する授業を行う。コース最終回では、日本文学紹介発表会を行う。

日本文化演習：ことばと社会 (Japanese Culture :Language and society)

山元 啓史 教授 0-1-0 4Q

留学生を対象とする。本講義では、より高度な日本語の学習と日本社会におけるさまざまな問題をディスカッションを通して学ぶ。「鎖国・開国」「軍事・戦争」「教育・受験」「産業・消費文化」「インターネット社会」などグローバル化の歴史を概観できる授業を行う。授業での例をもとに、「格差社会」「少子高齢化」「地球温暖化」他、自分たちでテーマを選び、グループ毎に発表会を行う。発表会は「紙芝居」「ボードゲーム」「人生ゲーム」「マンガ」など興味ある形で自他の発表を通してより多くの情報が整理できるように行う。